



発行所 魚津市田方町80番地 魚津市役所 編集発行人 清河七良 (毎月1日・15日)

魚津市下村木町 中越印刷魚津工場

# かかろゆく魚津

## 其の五 水道関係

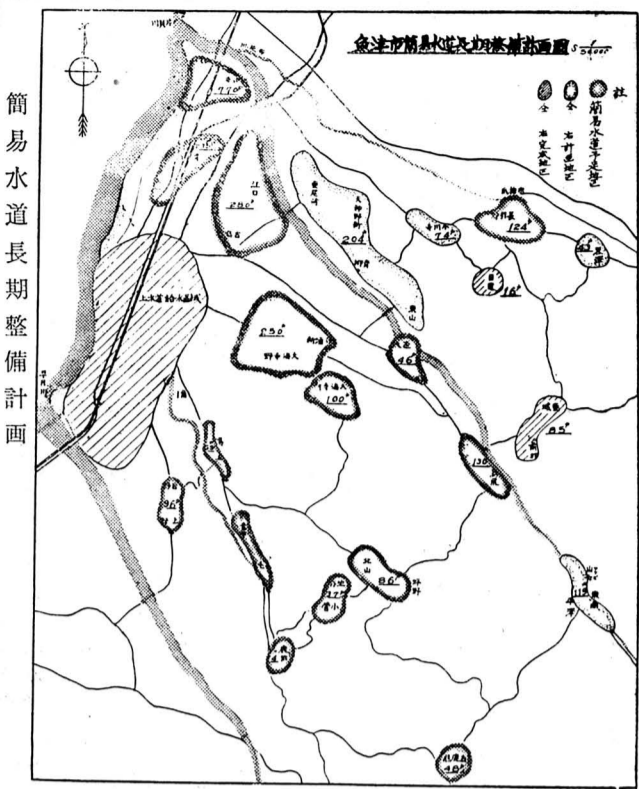
市制施行以来の大事業の一つに上水道事業が挙げられます。しかも公営企業的性格を有するものの最初の事業でもありましよう。

本市上水道事業は、合併後の昭和二十七年工費約一億五千七百餘万円、三ヶ年計画のもとに事業認可を受け、水源調査が開始され、翌二十八年二月工事が着手されました。その後三年、現在は給水戸数二、二〇〇戸市街地の大半の給水を終え、本年をもって一応完成をみまできになり、又山間東城、日尾部落には簡易水道が布設され、他の山間部にも簡易水道の布設が計画されています。

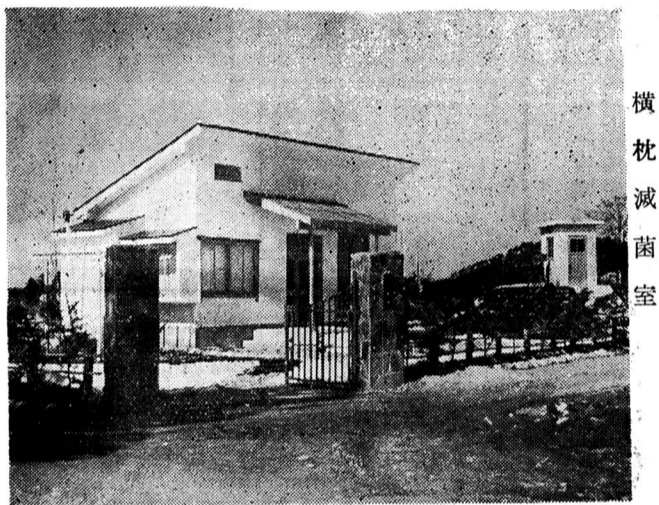
しかも給水には必然的に排水が伴い、排水の処理が下水道という事になるが今後下水道、ガス、交通と云う所謂市で経営する事業が進められて行く事と考えられます。

### 本年度完成を 目ざす上水道事業

上水道事業は、昭和二十七年に事業の認可を受け、七月一日の大雨害によつて燃えあがる復興の熱意と、大魚津市建設の意図のもとに八月水源の調査に着手しました。合併後の広範な給水区域を



簡易水道長期整備計画



横枕減菌室

### 市街地から農村へ 広範囲な給水計画

市街地の現在の配管状態及び今後の計画は下図を参照して下さい。本年は旧天神村地区へ上水道の水が送られる事になります。これは簡易水道事業ですが横枕で水を分け、ポンプで加圧して送水するもので片貝川を東山橋に添って右岸に渡り東山、青柳、天神野新及び東尾崎へ給水するものであります。更に此の加圧された水は将来石垣新地内に配水される道坂、上野方下印田等の高い地区に配水される時期も遠くはあります。又低地区では東は終田、西は三ヶに至る間となり、広範囲な市の将来の給水区域を対象とする事と給水区域の拡大は、市街地の進展に伴って行われましよう。本市の水道は幸いにして地形に恵まれ、自然流下方式で配水され、動力を使用しないので済むと云う特徴があります。これは料金及び運搬量に於て年間少くとも二〇〇万円以上の経費の節減であり、今後の進展を考慮する時大きなプラスとなつて参ります。大中都市に住むものみを得られていた文化施設

は着々と我が市にも其の歩を進めて来た訳です。遠い道を歩き、暗い燈火のもとに其の目をこし伝染病におびえ、無駄な労力をついやして、年を経て来た過去は余りにも大きな労力の負担であり、酷使であつたと考えられます。

### 将来は 下水道事業

都市の衛生環境を良くするのには、先づ飲料水の改善が第一に行われますが、下水が完備されないと、折角飲料水を改善しても、衛生的な都市にはなれません。排水の悪いところに給水を行うことは、却つて困難や不便を伴う結果となり折角の給水も十分に利用が出来

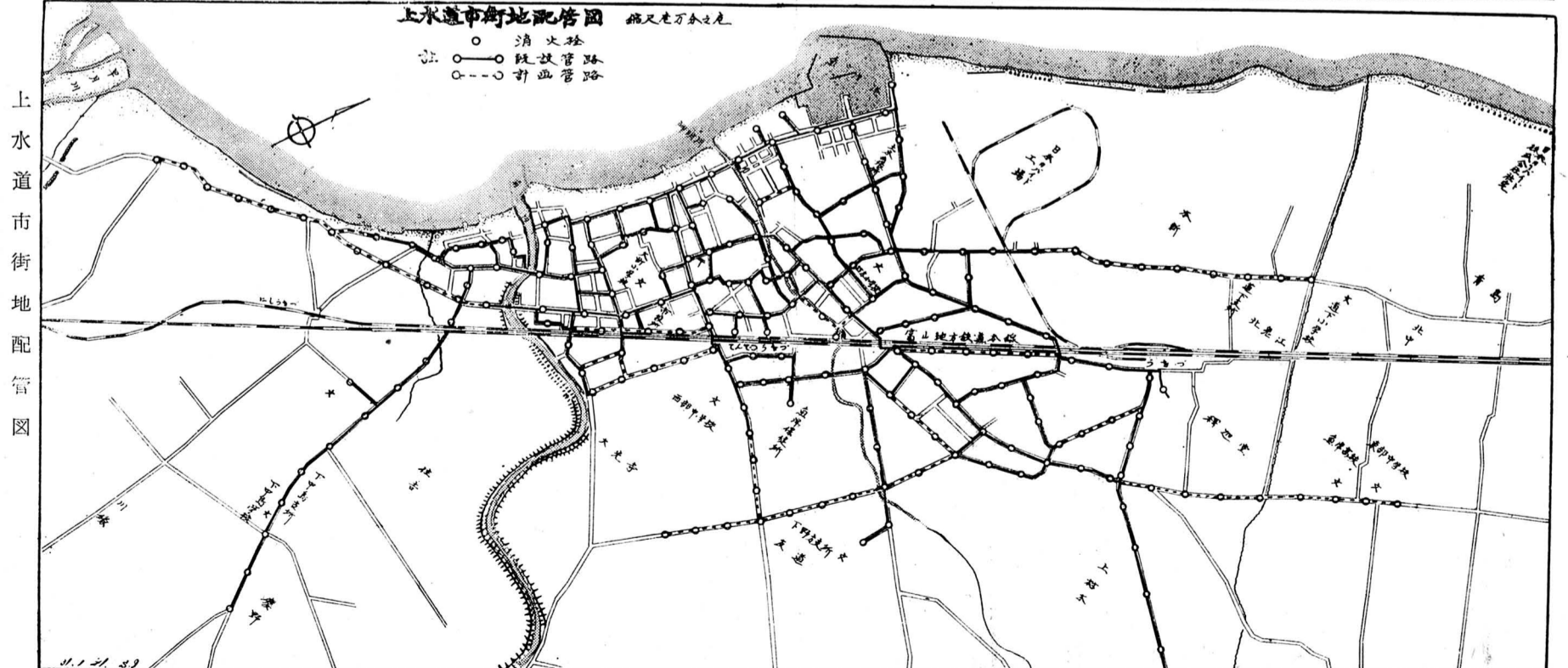
昭和31年1月現在水道給水管及戸



### 簡易水道

簡易水道というものが、三、四年來盛んに口の端にのぼるようになりました。この簡易水道という言葉は、誤解を招き易いのですが、管から単に水が出るというふうなものであつてはならないので、一口に言えば、小規模な上水道といつた方が適切でしょう。本市においても、昭和十九年に、はじめて東城及び日尾地区に布設しました三十年度は天神地区にも布設することに決定をみて目下工事に着手しておられますので、遠からず給水で

きる見通しで、引続き小川寺東蔵、黒沢及び小菅沼地区に対しても布設する標準をすすめておられます。市内農山部では、まだ多くの方々が衛生上飲料に適しない川水や、湧泉水を使用されておられ、水の便が悪いため婦人の労力が過大に消費されておられることは、日常生活と切り離せない問題だけに、健康上、或いは、非能率的な努力を毎日続けることを考えると、生活改善はまづ台所の水道からという事になります。



上水道市街地配管図

